

材腐食と結論

部の強度不足も

長井 敏田泰子・神戸大学で開催した。昨年10月46日、2本が一部「破断」と説明。アーク管外面溶接部の管は状態だった。同市企業。前日の19日には送水管復旧工事が一部完了

骨子(案)として、各担当者が説明した。

①では、落橋水管橋における破断部近傍断面の金属マクロ組織を調査した結果、破断部は外面腐食損傷が顕著で、吊り材は外面腐食の影響が大きく、破断部先端の厚みは1mm以下となっているものが多かった。

②では、吊り材に取り付けられた風対策部材をはじめ、吊り材本体も塗膜劣化や鳥糞などによる錆で腐食が進行。吊り材18本のうち、半数程度が腐食して破断したと結論付けた。アーチ材の溶接箇所も引張強度不足が確認され、水管橋設置工事に十分溶着されていない可能性も指摘された。これに伴い、水管橋自体が変形し、送水管も破断や座屈が生じたとしている。

③では近接目視点検や点検方法の整理ができておらず、腐食経過などが認識されていなかったと

和歌山市では昨年10月、六十谷水管橋の一部破損で、市内の約40%に当たる最大約6万世帯(約13万8000人)が水道にわたって断水。調査委員会は破損要因や発生防止策などを協議するもので、瀬崎典男・和歌山市公営企業管理者が協議内容を今後の水管管理の参考に「などと

⑤水管橋維持管理マ



スマホに映し出された屏風絵の世界。現地で「今昔」を比較

水環境教育で社会実験

京の「水文化」今昔をAR体験

大阪大若手研究者が体験型イベント企画

京都鴨川を舞台に水環境教育で社会実験一。若手研究者が体験型イベントの開催により、一般市民を対象とする水環境教育の教材開発を念頭に置いた社会実験的な取り組みを展開している。

イベントを開催したのは、大阪大学工学研究科の堀さやか助教と学生のグループ。3月25～27日及び今月1～3日に京都市内で開催されたイベントでは、鴨川に近接する図書館内の一室に「洛中洛外図屏風」のコピーを展示し、訪れた人には数カ所にQRコードが印刷された地図を配布。興味を持った人にはスマートフォン等で関連アプリをダウンロードしてもらい、予め設定されたポイント(屏風絵で描かれる鴨川と人との触れ合う場所)に足を運んでもらい、そこで地図のQRコードをかざすとスマホ画面には屏風絵で描かれた同じ場所が現れるというもの。

堀助教は、「伝統的なアート



興味深げに屏風絵を見る来場者

いた専門企業による定期点検を実施することなどを盛り込んだ。

また、同市は今年度、水道施設基本方針策定業務を委託し、送水管の複線化や断水区域への新たな浄水場建設など、水道施設全体のあり方を再検討し、六十谷水管橋の耐震診断なども進める。

これらに対し、敏田座長ら委員からは「構造物はいつか壊れるという視点が重要」「点検の知見を積み上げて記録も」「水管橋支持部材の耐震化も不可欠」などの意見が出

の力を借りて「自然」「水」への関心を高めてもらえればとイベントを企画したが、最終目標は学校教育への応用。身近な水資源に関心を持ってもらうことを目的に教材開発に取り組んでいる。屏風絵が描かれた室町時代の鴨川とそこに居る人々と現代とを時間軸を超えて重ね合わせることで感じてもらえることは多々あるのではと思う」とイベントのコンセプトを述べる。

訪れた人の中には、「昔の鴨川は「暴れ川」だった」という説明に関心を示して頷く様子も見られ、水への興味から歴史認識を深めてもらう効果もあったようだ。

千葉県夷隅地域(いすみ市、勝浦市、大多喜町、御宿町)の水道事業統合、広域化の協議機関である夷隅地域水道事業統合協議会は23日、「水道事業統合・広域化基本計画策定業務」の募集を開始した。

同業務は、「夷隅地域水道事業統合・広域化基本計画策定業務」を策定する。本計画書を決定する。将

夷隅地域の水道事業統合へ 基本計画の策定業務を公募

夷隅地域水道事業統合協議会

▽更新需要の算出▽単独事業における財政シミュレーション▽事業評価課題の抽出▽目標の設定、広域化基本方針(案)の作成▽協議会、幹事会および専門委員会等の運営支援。このうち、目標については、水道事業の運営基盤の強化等、広域化による改善が可能な事項を整理したうえで、

24日、企画提案書の提出意思表明の受付期間が5月24日～6月7日、企画提

For Earth, For Life Kubota

研総管社

のソリューションを皆さまに!

の5か年加速化対策、防災、減災、国土強靱化



Aqua Tech